

きみが いちばん ひかるとき

道徳科通信

2024 no.

7

光村図書



〈特集〉令和7年度版 中学校「道徳」

新しい『きみが いちばん ひかるとき』をお届けします

〈特別企画〉

対談 ヨシタケシンスケ×苦野一徳
「なんだろう」って、なんだろう

〈連載〉知って役立つ発達心理学⑦ 渡辺弥生

An illustration of several middle school students walking on a wet, reflective surface, likely a sidewalk after rain. They are carrying backpacks and holding umbrellas of various colors: yellow, blue, green, red, and teal. The scene is rendered in a soft, painterly style with light blue and white washes on the ground, suggesting puddles and reflections. The students are dressed in school uniforms, including grey jackets and skirts or trousers.

特集 令和7年度版 中学校「道德」

新しい 『きみがいちばん ひかるとき』 をお届けします

地球上に生命が誕生して以来、「いのち」はつながってきました。

つながる「いのち」の中で、唯一無二の、かけがえのない「いのち」をかがやかせるために、

光村図書は「道德」の教科書作りに臨みます。

これからの時代を担う子どもたちの一人一人が、

自分の「いのち」を、自分の存在を、大切に思えること。

自分と同じように生きている他者を、大切に思えること。

みんなでいっしょに、よりよく生きていこうと思えること。

一人一人の、そんなひかりかがやく思いをかなえようとする教科書。

それが『きみがいちばん ひかるとき』です。

光村図書が大切にしたい二つのこと

一人一人がかけがえのない存在

一人一人は、個性をもった唯一無二の存在。
 それでありながら、みんな同じ「人間」でもある。
 それぞれの違いに目を向けながらも、
 他者を自分と同じ人間として大切に。
 いじめも、差別も、戦争も、
 この思いがあれば解決に近づくのではないかな。
 そんな思いを込めて、教科書を編集しました。



各学年のキャラクターにも個性をもたせました。



1年 ユニット「共に生きるために大切なこととは？」 p.117-135



問い続けること。 対話すること。

価値観や社会構造の変化、テクノロジーの進歩。
 子どもたちが大人になる頃の社会は、今以上に予測できない大きな変化が起こるといわれています。
 そんな時代を生き抜くために、そして、よりよい世界をつくるために必要なことは？
 人工知能にはできない、人間どうしだからこそできる、
 問ひ合うことの意味や、話し合うことの価値を見いだせる教科書を目指しました。



この教材に注目！

光村図書は、中学生の心をぐっとつかんで、思わず何かを言いたくなるような題材を探し続けています。そのうえで、題材の魅力を最大限に生かし、「考えるに足る教材」に仕上げることに、さらに、それらの教材に最適な時期に出会えることを大切に教科書を編集してきました。ここでは、1年間の学習の流れに沿って、編集委員の及川仁美先生と荒木寿友先生のおすすめ教材をご紹介します。



及川仁美
●おいかわひとみ
岩手県盛岡市立厨川中学校指導教諭。『道徳教育』（明治図書出版）にも多くの記事を執筆。光村図書 中学校「道徳」教科書編集委員。



荒木寿友
●あらきかずとも
立命館大学大学院教授(教育学、道徳教育)。著書に『いちばんわかりやすい道徳の授業づくり』（明治図書出版）など。光村図書 小・中学校「道徳」教科書編集委員。

1年間の流れ

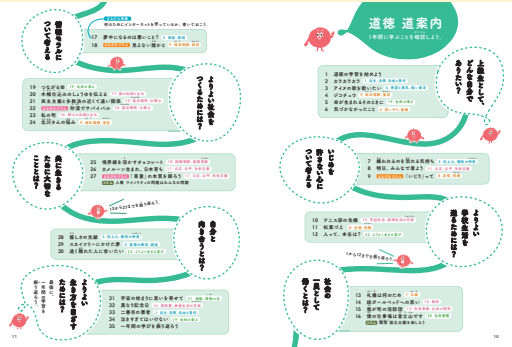
道徳の
1時間目

いじめを許さない姿勢づくり

クラスづくり、学校づくり

道徳の学習を始めよう

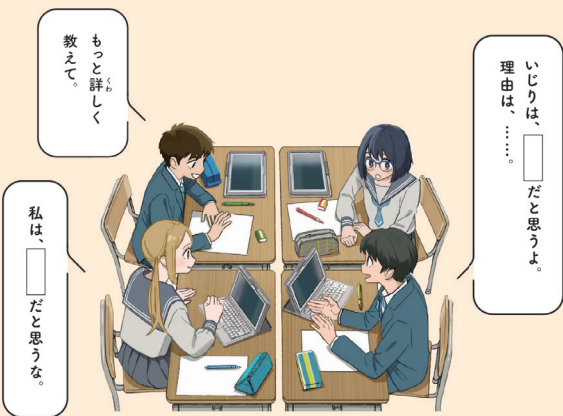
1年間の最初の道徳の授業。道徳では何を、どんなふうに学ぶのかをクラスのみんなで確かめます。



2年

B (8) 友情、信頼

9 「いじり」って



たった1文字違うだけの「いじり」と「いじめ」。「いじめはだめだけど、いじりは笑いにも通じるし、OKでしょ？」と捉えている生徒もいるのではないのでしょうか。しかし、基本的に、「いじり」と「いじめ」には、大きな違いがあるわけではありません。「いじる」とは、他者をもてあそぶこと。「いじめ」は被害者側から語られるのに対し、「いじり」はいじっているほう、つまり加害者側から語られているにすぎません。「いじり」に正面から向き合い、その行為がもつ暴力性に気づいてもらえたらと思います。

(荒木寿友)

1年

C (15) よりよい学校生活、集団生活の充実

11 みんなで成功させよう

この教材は、生徒にとって「あるある」な出来事を教材化したものですが、このようなリアルな問題を道徳の授業で扱うことで、生徒は、実生活の中で出会う道徳的な問題を解決していくことができるようになります。各教科では、オーセンティックな学び（具体的な本物の場面に即した学び）で真の学力の向上をねらっていますが、道徳も同様です。そうでないと、本物の道徳の力は身につかないでしょう。

(荒木寿友)



3年

B (6) 思いやり、感謝

11 言葉が見つからないとき



「人には優しくしましょう」といった表面的なことではなく、中学3年生だからこそ考えさせたい、複雑で深い思いやりをテーマにした教材です。医師であり作家である鎌田實さんの穏やかな文章が、静かに深く心にしみ渡り、胸が熱くなります。

末期がんの善さんが独り言のように言った言葉。その言葉に対する看護師たちの行為を巡って、「人が人を思うとはどういうことか」「自己満足ではない、本当に相手のことを考えた思いやりとは何か」という、とても大切なことに気づくことができるでしょう。

(及川仁美)



1年 p.117

人権ユニット

人権週間(12月)の時期に合わせて、全学年に、複数の教材とコラムで人権について考えを深めるユニットを設けています。

共に生きるために大切なこととは？

社会の一員として

12月

よりよい生き方を探して

道徳の
35時間目

1年

C (10) 遵法精神、公德心

23 白いスニーカー

バスケットボール部にある、「1年生が履いているのは、白のスニーカーだけ」という暗黙のきまりについて、主人公を含めた8人の登場人物が、それぞれの立場からさまざまな意見を述べています。

一見、正論のように思える意見も、違う視点から見ると「そんな見方があるのか!」と気づかされます。これを起爆剤に、たくさん意見を出し合ってみましょう。「いい」か「悪い」か、「A」か「B」かの二項対立の話し合いだけではなく、よりよい納得のために、もっといい「C」のアイデアが生まれるような、建設的な対話ができたらすてきです。(及川仁美)



3年

A (4) 希望と勇気、克己と強い意志

24 希望のカレンダー



挫折と希望。二つは、とても遠いところにあるように思えますが、実は深い関わりがあると聞いたら、生徒たちは驚くのではないのでしょうか。多くの挫折とも向き合う中学生という時期に、「希望とは何か」や、挫折を希望へとつなげた人々について考えることは、これからの人生を支える大切な経験となるでしょう。

また、これは「希望学」という新しい視点の「震災関連教材」でもあります。希望の象徴としてのカレンダーのエピソードは、とても印象的です。カレンダーと希望のつながりなどを丁寧に話し合う中で、自分たちの心にも「希望の種」がぎっくとあると、感じてくれると思います。

(及川仁美)

1年

D (21) 感動、畏敬の念

33 「感動」の本質を探ろう

2年

C (11) 公正、公平、社会正義

27 「尊重」の本質を探ろう

3年

A (5) 真理の探究、創造

32 「学び」の本質を探ろう

「本質」とは、「それを欠くとそれではなくなってしまう不可欠な要素」という意味。これらの教材では、「感動」「尊重」「学び」の「本質」を、生徒自身が探ることをねらっています。「こんな経験は『感動』に該当する?」「この場合はどうなる?」などの事例を考えてたくさん出し合う拡散思考と、そこから「本質」を見つけ出していく収束思考。これにより、生徒の思考力は高まっていきます。

ペーパーテストのように目の前の問題を早く解くだけでなく、じっくりと腰を据えて物事を捉えていくことも「深い学び」には大切です。先生方も、生徒といっしょに考えてみませんか。

(荒木寿友)



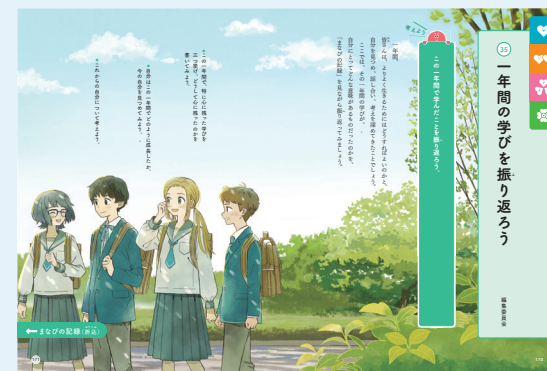
1年 p.160-161



まなびの記録

1年間の学びを振り返ろう

各学年の最後の、1年間を振り返る時間。見通しをもって学び、それを振り返って自己評価することは、自分で自分を成長させていく力を育みます。



2年 p.170-173

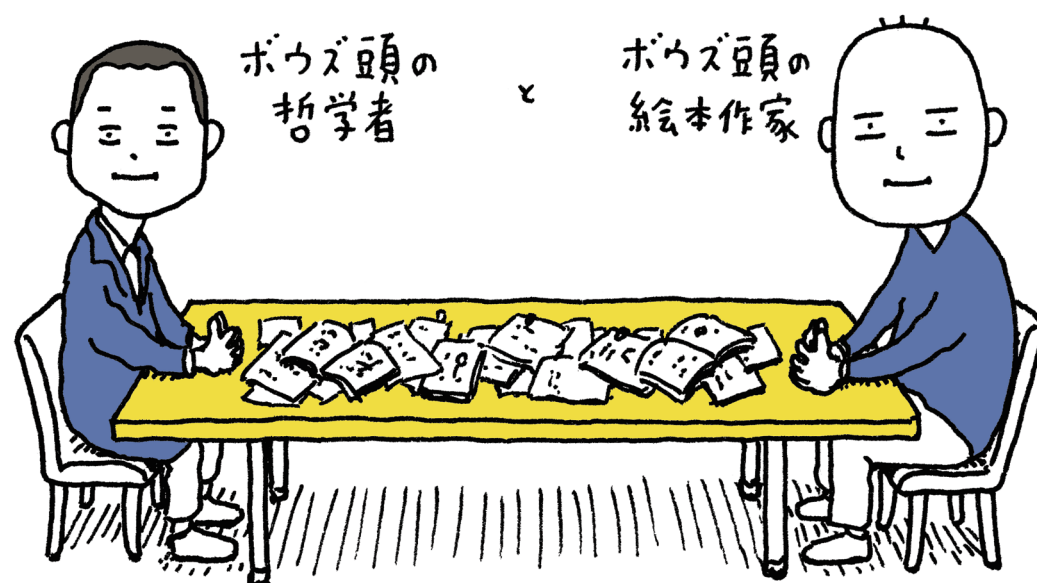
特 別 企 画 対 談

ヨシタケシンスケ

×
苫野一徳

「なんだろう」って、 なんだろう

小・中学校「道徳」教科書掲載「なんだろう なんだろう」の筆者ヨシタケシンスケさん。
新版教科書に、本質観取をテーマにした教材をご提案くださった、哲学者の苫野一徳先生。
光村図書の道徳教科書『きみが いちばん ひかるとき』で出会ったお二人に、問うこと、
そして子どもたちの未来について語り合っていました。



苫野一徳 とまのいっとく

1980年兵庫県生まれ。熊本大学大学院教育学研究科准教授。専門は哲学、教育学。著書に『愛』（講談社）、『学問としての教育学』（日本評論社）など多数。光村図書 小・中学校「道徳」教科書編集委員。

ヨシタケシンスケ

1973年神奈川県生まれ。絵本作家。絵本や児童書の挿絵、イラストエッセイなど多方面で活躍。光村図書からは絵本『なんだろう なんだろう』、エッセイ『日々臆測』を刊行。

「なんだろう なんだろう」 と本質観取

苫野 哲学における「本質観取」って、物事の本質を洞察して、みんな言葉にして編みあげていく行為なんです。ヨシタケさんの「なんだろう なんだろう」を拝見したとき、いろいろな事例、具体例を挙げていって、そこに共通するものから、「○○とはこういうものだ」という、みんなが納得できる言葉を見つけようとする手順が、本質観取と全く同じだと思ったんです。

ヨシタケ 「なんだろう なんだろう」をかくときに、僕の中でルールとして決めたのは、正解が一つだと誤解されない表現を旨とすることだったんです。例えば、「友達って大事だね」と言われても、結論がぼんやりしてしまって、「はあ」としか言えないんですよね。

苫野 そんなメッセージ、いらないですよ。

ヨシタケ 正解はこれだと言い切らず揺らがせていくことと、苫野先生がおっしゃっていたような「具体性」を表現することがいちばん大事だと思います。例えば「友達」みたいな概念って、大人でも子どもでも、具体的な出来事からでしか、抽出できないはずなんです。

苫野 そうですよ。

ヨシタケ 絵と言葉で、「例えばこういうこと」というのを具体的に言われて初めて、「俺だったらこうだな」っ



て頭が動きだす感覚になると思っています。

苫野 なるほど。

ヨシタケ それを大事にしながら、「みんな」など大きな主語を使わないことや、「絵本に出てくる子たちにとってはこれが大事なんだろうな」というのを思ってもらえる、共感のようなものを描かないと、ついてきてくれないだろうなと。おそらく、言葉で本質に迫るということの手順と、僕の注意する部分とが、似ている気がするんですよ。

苫野 そうですよ。その具体例が本当におもしろいんです。すごく具体的でごく個人的なことを掘っていくと、なぜか普遍に到達することがある。そこに子どもたちも「そうそう」ってうなずけると思うんですよ。

ヨシタケ うれしいですね。

二つの問い

苫野 今回の対談、私は“わくわく”ベースの問いをもって来たんです。

ヨシタケ “わくわく”ベースの問いとは？

苫野 「問い」って、大きく二つの思いから発生すると思っています。私の場合、多いのは、不安。「なんでこんな苦しい思いをしなきゃいけないんだ」といった、焦りからくる問いが多いんですが、それってしんどい



んですよ。

ヨシタケ 僕も基本、不安からくるものばかりですね（笑）。

苫野 もう一方で、今日みたいに、“わくわく”からくる問いもあると思うんです。哲学用語だと、「エロスの予期」っていうんですけど。この不安と“わくわく”の二つが人の問いの二大ドライバーになっていると思っています。

ヨシタケ 確かに言われてみれば、問いは不安からくるものだけじゃないなというのを、今思って、びっくりしています。

苫野 これだけ子どもの世界を描いているヨシタケさんでも、不安みたいなものがベースにあるんですか。

ヨシタケ 僕の場合は、全て不安発ですね。「毎日、スケッチとか描いていて、楽しいでしょう」みたいなことを言われることもあるんですけど、楽しい人ってこんなわざわざ描いたりしないんですよ。

苫野 なるほど（笑）。それを聞いて安心しました。私も書いたり読んだりしていないと、いつも不安につぶされそうなんですよ。でも最近、先ほどのエロスの予期ということを意識するようになっていて、今日はどんな“わくわく”があるかなあと、そっちに意識的に向かっているところはあります。

ヨシタケ なるほど。



苫野 少し教育寄りの話をすると、「教育」を変えていかなければいけないという動きの中でよく言われるのは、「この国はもうやばい」という、不安ベースの話なんです。子どもが食いつぶれるとか、世界から取り残されるとか。

ヨシタケ 脅かすのは簡単だし、誰でもできるんですよね。

苫野 そう。でも、「それって長い目で見たらうまくいかないですよ」と、

よく言っているんです。「こんな学校やこんな教育の未来になったらわくわくしますよね」「そういう“わくわく”をかき立ててくれるビジョンを描きませんか」っていうのを、自分の本では書いています。

ヨシタケ 「なんで勉強しなきゃいけないのか」という問いに対して、「最終的にそうしないとおまえが生きていけないんだよ。生きていけなくなるんだよ」という答えが、よく言われます。でも、もう一つ言い方があって、「なんで勉強しなきゃいけないの?」「一人で餌を取れるようにならなきゃいけないの?」という問いに対して、「自分で餌を取ると、めっちゃ楽しいんだよ!」っていう答え方もありますよね。

苫野 そう! それなんですよ。
ヨシタケ 「あれちょっとやってごらん、楽しいから」みたいな選択肢がすごく少ないように感じています。脅かしたほうが即効性がありますが、長い目で見たときに、人って“わくわく”でしか動かないですよ。

苫野 そう思います。
ヨシタケ どちらも大事なんだけれども、両方あるということを、繰り返し言うていく必要があるんじゃないかと思います。片方だけしかないわけじゃなくて、“わくわく”で動くときと、不安で動くときと、「それを使い分けるよ。今はどっちかな」って、子ど

もに選択肢がたくさんあることを教えるのが、大人のやるべきことなんだろうと思いますね。

問い方の訓練

苫野 ヨシタケさんは、問い方は訓練でうまくなるものだと思いますか。私は少なくとも自分で訓練した記憶はないんですが。

ヨシタケ 僕は自主開発をしたので、「はい」とは言います。ある程度のマニュアル化はできます、と。基本的に、僕は理詰めで絵本を作るので、例えば、「りんごの色を変えてみたらどうだろう」とか、「大きさを変えてみたらどうだろう」とか、いろいろな軸を変えて見ているんです。

苫野 おもしろいですね。確かに、そういう発想をちょっと知るだけで、問いが次々生まれてきそうです。

ヨシタケ どういう考え方をすれば問いが生まれるか、というのはある程度マニュアル化できるし、共有も、みんなで同時にやることもできるはずなんです。あとは慣れで、いったん癖がつくと、あれこれ考えだすんですよ、どんな人でも。

苫野 なるほど。

ヨシタケ その「最初の問い」をみんなではじくり返すというか、練習してみるというのはすごくいいと思います。仮に「最善の問い」を100点満

点とすると、75点ぐらいの問いはみんな、練習で作れると思うんですよ。「センスのある問い」って、よく言われますけど、それは、80点、85点ぐらいの問いだと思うんです。

苫野 哲学は、8割ぐらいが問いの立て方で勝負が決まるところがあって、本質的な問いの立て方と、どこにも行き着かない問いの立て方というのがやはりあるんですね。お話を伺って、本質的な問いの立て方って、確かにある程度は訓練でできるものだなというのはすごく思いました。

ヨシタケ そうですよ。

苫野 哲学の歴史は、人類がさまざまな思考に失敗する中で、本質的な問いの立て方を見つけてきた歴史でもあります。そういう意味では、「問い方にはコツがある」「それは練習で、ある程度身につけられる」と言われると、確かにそうだなと思いました。「問い方の訓練」というものを意識したことはなかったんですけど、言われてみれば、自分もそういうことをやってきたのかもしれない。

答えなくてもいい問いもある

ヨシタケ そうですね。我々は、自然に問い方のコツを見つけていったタイプですけど、それは練習することで、何かしら作れはすると思うんです。まあ、問いは、立てたい人が立てればいいと思うんですけどね。そもそも「問い」ってあればいいわけではない。問いの中には間違った問いがたくさんあるんですよ。

苫野 はい。

ヨシタケ 「問いを立てられなくてもいいけど、あなたが問われた問いが、問いとして正しいかどうかを判断できたほうがいいよね」ということは、



せる問いって作れるし、作ってもいいんだよ」って、子どもたちには教えてあげたいですね。

自分を嫌いなまま生きてもいい

苫野 少しテーマを大きくして、未来の話をしたいと思います。私の中では、戦争はどうやったら減らしていけるのかというのが、一つ、大きなテーマとしてあるんです。

ヨシタケ うんうん。

苫野 哲学の歴史の中で、いちおう、それに対する一つの筋道は見えてきたんですね。自分の自由ばかり主張し続けていたら、いつまでたっても争いは終わらないから、「お互い対等で自由な存在だよ」と、まず認め

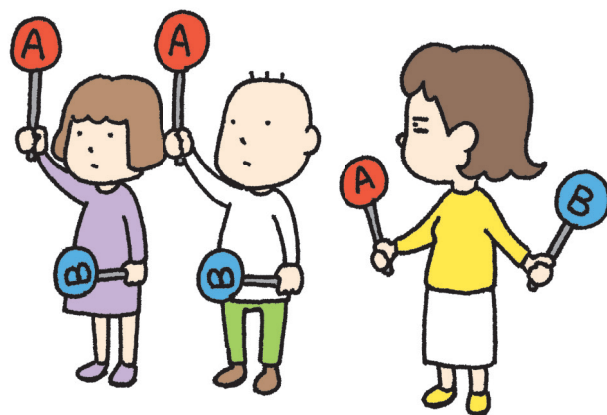
言っておいたほうがいいと思うんですよ。

苫野 それでいうと、ヨシタケさんの「なんだろう なんだろう」は、いちばん大切な問いかなと思っています。「そもそも」を考えないと、やっぱりとんちんかんなことをいっぱい考えてしまうので。

ヨシタケ 子どもたちに今後言っておくとしたら、「いろんな問いを大人たちから投げかけられると思うけれども、その中には答える必要のない問いもいっぱいあるんだよ」ということ。それを、最初に言ってあげたいし、僕も言っておいてほしかったなと思います。

苫野 哲学の場合は、答えを次世代に受け継いで、もっといい答えを更新していくんですけど、「そもそも」に対する問いをもち続けないと、どうしてもピントの外れた方向に行ってしまう。それは、答えるに値しない問いだとも言えますね。

ヨシタケ 考えていて楽しくなる問いと、切羽詰まってくる問いの二種類があると、みんな感覚でわかると思うんです。そういう「自分が脅かされているように感じる問いについては、考える必要ないんだよ」ということを教えてあげたいし、そういう問いよりは、「自分で自分をわくわくさ





苫野先生からのご提案をもとに教材化したページ
(2年「尊重の本質を探ろう」p.128-129)



ヨシタケさんに描きおろしていただいた
「なんだろう なんだろう」のページ (1年 p.82-83)

合うというルールを共有しようということ。それを哲学では、「自由の相互承認の原理」といいます。

ヨシタケ お互いを認め合うというのは、まず一つのゴールですよね。教科書的にも、教育の枠の中でも、「自分を認めてもらうために、少し我慢して他人を認める」ということを、目ざさざるを得ないと思います。それは、未来に願うことの一つですね。

苫野 そうですね。

ヨシタケ そのための順番として、他人を認める前に、「自分を認める」というステージがあると思うんですが、別に自分を嫌いなまま生きていてもいいんだ、だましだましやってもいいんだなというところから、世界が始まる人もいると思うので、落としどころをたくさんつくっていくのが、未来をつくっていくということなのかとも思います。

苫野 その考え方はとても新鮮です。

「自己肯定感を上げよう」とか、「もっと自分を好きになろう」とか、そういうことばかり言われるじゃないですか。

ヨシタケ それなのに自分を許してあげられないからつらいんですね。結果が出せないから、さらに焦っていく。僕もずっとそれで苦しんでいて、これはそもそも、「自分を認めてあげること」をゴールにすることが間違っているんじゃないかと、ふと思ったときがあって。

苫野 なるほど。

ヨシタケ それを認められないと失敗なのだとしたら、自分は失敗だなんて思ったんですよ。だから、全員を「失敗じゃない」とするには、どうすればいいんだろうと思ったときに、「嫌いな自分に慣れることも自己肯定の一つだな」というストーリーを作っていくのが、大事な気がしています。

苫野 先ほどの、生き方の選択肢を増やすという話ともつながりますね。

ヨシタケ 自分が望んでいないことが起きたときに、それをどう受け入れるか。いい諦め方というか、一つの事実を受け入れるためのストーリーをたくさんもっておくに越したことはないんですよ。

苫野 そのとおりだと思います。

ヨシタケ だから、未来を生きていくうえで、そんなストーリーをたくさん用意していきたい。その中で、「自分を嫌いなまま生きている人って、けっこういるんだよ、俺もそうだよ」と言いたい。「自分のことは嫌いだけど、もう変えられないもん」っていうのも、一つのストーリーになるし、「自分を認めてあげられたら、そっちのほうが楽しいけど、それ、毎日できる人もいないんだよ」というストーリーも用意したいと思います。

苫野 「自分を嫌いなまま生きてもいい」って、なんだか、すごい言葉をいただきましたね。



お二人の対談を
動画で楽しみたい方は、
こちらから。



道徳授業を成功させよう

知って役立つ発達心理学

渡辺弥生

Yayoi Watanabe
(法政大学教授)

第7回 思いやりの心はどのように発達するか

道 徳科の目ざすところは、よりよく生きる力を育てることにあり、そのため学習指導要領では22の内容項目が掲げられています。これらの項目は、相互に関わりなく独立しているわけではなく、大きく捉えれば「思いやり」という共通要素があるように考えられます。思いやりは、自分自身に向けて、他者に向けて、集団との間で、そして、生命や自然との間でも共通して、その関わりを支える土台となる心の働きだと思うからです。

今回は、思いやりの心の発達について考えてみましょう。

相手の立場を思いやる力——役割取得能力

ここでいう「思いやり」とは、相手の気持ちを推測し、コミュニケーションを取って理解しようとすることです。この能力は「役割取得能力」とよばれ、自己の立場のみならず他者の立場に立ち、相手の感情や考えを理解できることを指します。つまり、重要なのは、「自分と他者は同じ人間なのだから、言わなくてもわかる」と発想するのではなく、「同じ人間であっても、違う個性である」と理解することだといえます。役割取得能力は、下表のレベル0～4のように、発達段階に応じて成長していきます。

レベル0	自分と他者の視点を区別することが難しい。
レベル1	自分の視点と他者の視点を区別して理解するが、相手の気持ちの推測については、「笑っているから楽しいだろう」という表面的なレベルにとどまる。
レベル2	他者の視点から自分の思考や行動について内省できる。また、他者もそうすることができることを理解する。外から見える自分と、自分だけが知る現実の自分という二つが存在することを理解できるようになる。
レベル3	自分と他者の視点以外、「私」と「あなた」を外から見ている第三者の視点をもつことができるようになる。
レベル4	自分がさまざまな社会的カテゴリーに所属していることを意識できる。また、経験していない立場をイメージして推論できるようになる。

表 役割取得能力の発達段階

思いやりを育てる教育

役割取得能力を育てる実践の一つを紹介します。表のレベル2の役割取得能力を身につけることを目指し、二人称の葛藤場面を提示する実践です。二人の登場人物の視点から葛藤場面について考えることで、人によって考え方が違うことに気づかせ、役割取得能力を高めることができます。ここで扱った資料については、ウェブサイトをご参照ください(※)。

本実践では、教材を途中まで読み進め、二人の中心的登場人物の思いが擦れ違って衝突が起こる葛藤場面面で中断を入れて、互いにどんな行動を取って解決するか、ペア・ロールプレイを行います。

例えば、登場人物のAとBが衝突する場合、ペア・ロールプレイでは、Aの立場でロールプレイを行った後、役割を交代してBの立場でもロールプレイを行います。このとき、子どもたちは、Aの立場に立ったときにはAに寄った考えを、Bの立場に立ったときにはBに寄った考えをもちやすくなります。そのため、AとB両方の立場に立つことで、Aの立場に立ったときとBの立場に立ったときの、自分の考えの矛盾に気づき、他者の視点を意識できるようになります。この気づきが、「同じ人間であっても、違う個性である」と理解することにつながります。

授業のまとめでは、子どもの発達に応じた「書いて表現する」ワークを行います。「私から登場人物のAへ」「私」が「私」の立場で「あなた(A)」の気持ちを考える練習」という手紙を書かせます。相手の気持ちを考えること、そして互いの気持ちを表現することを学ぶことができます。

※資料は、こちらから
ご覧いただけます。



渡辺弥生●わたなべやよい

発達心理学、教育学博士。法政大学文学部教授。著書に『感情の正体——発達心理学で気持ちをマネジメントする』(筑摩書房)、『子どもの「10歳の壁」とは何か? 乗りこえるための発達心理学』(光文社)など。監修に『まんがでわかる発達心理学』(講談社)など。光村図書小・中学校「道徳」教科書編集委員。

編集部だより

入社して私が編集部に配属されたのは、令和7年度版中学校道德教科書の制作の真っ最中でした。皆が忙しそうに動いている中、なんの役にも立てない私は、その様子をただ見ていることしかできませんでした。そんな中、取り組んだのが「私が働く理由」(1年)の教材作成でした。「私が働く理由」は、人々の働く姿から、働くことの意義や、やりがいを考えてもらいたい教材です。

取材先は神奈川県座間市クリーンセンター。一日がかりの取材の中で、何より心に残ったのは、ごみ収集の作業に密着したこと。ただ話を聞くだけではわからなかったであろう清掃職員のお二人の熱を、密着取材したことで、感じることができました。また、取材に同行していた先輩の、服が汚れるのも気にせず写真撮る姿を見て、「プロってこういうことか」と思いました。三人の大人の「働く理由」を目のあたりにしたような気がしました。

私はこの取材で、働く大人たちの姿勢を知ることができました。この教材を担当することが決まったときには、「働き始めて半年もたっていない私が『働く理由』なんて」と思っていました。しかし、初めて関わった教材、初めて挑戦した取材が、「私が働く理由」でよかったと心から感じています。

「私が働く理由」だけではありません。全ての教材に、エピソードがあり、私たち編集部員の特別な思いが詰まっています。その思いが、皆さまに、子どもたちに伝わることを祈っています。

令和7年度版中学校道德教科書ご紹介ウェブサイト

令和7年度版教科書の特色・内容について、ウェブサイト上でご紹介します。

4月中旬
公開予定!



<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/07c-kyokasho/dotoku/>

- 新版教科書の特色やおすすめポイント
- デジタル教科書・教材の紹介とウェブ体験版(※)
- 教科書連動QRコンテンツ
- 年間指導計画・評価計画資料、評価業務支援シートなどのサポート資料

※ウェブ体験版は、お使いのスマートフォンの機種によって、ご利用いただけないコンテンツがございます。

アクセスはこちらから



光村図書ウェブサイト

光村図書

検索



小・中・高等学校
教科書訂正の
お知らせ



光村図書LINE
公式アカウント
友だち募集中!



道徳科通信 No.7 2024年4月26日発行 内容解説資料

発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL.03-3493-2111 www.mitsumura-tosho.co.jp
デザイン 鷹薮麻衣子 イラスト カトウミナエ/武者小路晶子
印刷所 協和オフセット印刷株式会社

●個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

[教育情報誌に関するお問い合わせ先] 住所変更・配送停止: ej1@mitsumura-tosho.co.jp ご意見・ご感想: koho@mitsumura-tosho.co.jp



光村図書



ミックス
紙 | 責任ある森林
管理を支えています
FSC® C020246